

(2)

言葉の世界だけにかぎらず、どのような表現形式であろうと、他人との関係を前提としていると言えます。内面の表現のように見えても、それは他人とは関係のない自立した人間の内部というものがあって、何かを表現しているということではないのです。表現とは他人との関係を前提とした約束事の上に成立する行為です。つまり表現のルールは個人に先だって存在しているということです。

個人に所属しているかのように見える新しい表現の形式が生まれたとしても、このすでにあるルールへの関わり方が新しいのです。これは自己表現ではあっても、けっして純粋な内面の表現などというべき性質のものではありません。

47 「これ」とあるが、何を指しているか。

- 1 他人との関係を前提としていない内面的な表現
- 2 異なるルールを所有している自己表現
- 3 内面的であることが表現の新しい前提
- 4 内面的な表現に見える新しい形式の表現

(3)

リンゴの味の何であるかを知るには、リンゴを食うのが先決で、食うということをせずに、リンゴの味について語るのは觀念の遊びである。古典も同じで、まずそれをみずから読むという実行が基本にならねばならない。これはわかりきったことだが、このわかりきったことが（注）存外一ばん大切なのではないかと思う。とりわけ近ごろは、参考文献と称するものがやたらとふえ、むしろその選択に戸惑い、それらを追っかけているうち日が暮れ、初心はどこかに蒸発してしまうといった事態さえ珍しくないかに見うけられる。実行よりは觀念が、経験よりは知識が重んじられすぎるからである。

（注）存外：案外。

48 この文章で筆者が言いたいことは何か。

- 1 どんなことにおいても物事には一番大切なことが存在しており、現在ではその大切なことが見えなくなっている
- 2 何事に関しても初心を大切にすることは一番なのだが、そのことがなかなか難しく、觀念や、知識に頼ってしまうことが多い
- 3 現在では考え方や知識の方が重視されており、実際に経験して学ぶことの大切さがおろそかになっている
- 4 古典を理解しようとする際には、参考文献を追い駆けるのではなくまず読むことから始めるべきである